

日本大学の キャリアウエイ モデルたち 2017



多分野で活躍する女性教員とOG・ロールモデル集

CONTENTS

好きならば、必ずやっていけると信じて下さい.....	平田(河野)典子	5
いつもいろいろな可能性があります.....	藤井紫麻見	6
「好き」を仕事として続けるために.....	押田(川田)佳子	7
あきらめずに仕事を続けよう.....	澤邊 知子	8
千里の道も一歩から！.....	青柳 美輝	9
急がず「流されてみる」のもありかも。.	小柴 誠子	10
「なんとなく」から楽しいことを見つけよう.....	永田 知子	12
色々な環境がある中で自分はどうありたいか.....	加藤 千晶	13
楽しむためにじっくり悩んでほしいです	堀切梨奈子	14
自分自身のために自由な選択を	金子(高藤)美泉	15
夢や目標を持つきっかけとは	早川麻美子	16
楽しさを言葉に	小池 美弥	17
Where there's a will, there's a way	吉野 泰子	18
自分で選んだ道を責任もって進みましょう！.....	高田 昌子	19
理系って思うほど難しくも大変でもない！	山崎 誠子	20
光の方へ、自分の心の声を聴きながら！	眞中 裕子	21

生物資源科学部

継続は力なり！「好きなこと」は続けるべし	浅野 早苗	22
「細く長く」続けていきましょう。	麻生久美子	23
己に向かい、自分の人生を。	井上菜穂子	24
行動が未来を拓く、心の声も大切に！	久保田裕美	25
しなやかに逞しく生きよう！	熊谷日登美	26
ロールモデルとなる方々と出会える幸運	近藤 春美	27
やりたいことを伝えよう！	清水みゆき	28
There is always another way!	上村真由子	29
興味あることにチャレンジ！	新町 文絵	30
迷走しながら鯨類研究をする	鈴木 美和	31
今の特技が将来、役に立つかも？	園原 和夏	32
耳学問ノススメ！	谷米 温子	33
努力を怠らず、自分を信じる	福澤めぐみ	34
数年先のなりたい自分をイメージしよう！	若林 素子	35

医学部

かけがえのない人生を生きよう	増田しのぶ	36
仕事に甘えは禁物！	中井 俊子	37
Think Zebra!	相澤(小峯)志保子	38
人生を楽しむ！！～必ず道は開ける～	石毛 美夏	39
「今を生きる」	谷 真弓	40
一生、一年、一日。	山口 順子	41
プロであれ！	岩本 真帆	42
感謝とともに	中西 陽子	43
日々その日にできるベストを尽くしてください。	西尾 晴子	44
あなたの夢を諦めないで！	吉武 真里	45

夢をもって、新しい道を切り拓こう！	野呂知加子	47
日大リケジョを応援します！	清水 明美	48
前向きにコツコツと取り組めば、必ず道は開けます。	亀井 靖子	49
できることではなく、あなたの道を見つけよう！	大江 秋津	50
人との出会いを大切に	小森谷友恵	52
流れに身を任せてチャンスの女神の前髪を掴む！	三木久美子	53
自分をオープンにして、いろいろな経験・意見を受け容れ、仕事と向き合ってみよう！	小谷 幸	54
キャリアの後押しはコミュニケーション力	丸野 綾子	55
陽気さは七難かくす。いつも明るく元気印で！	松田 清美	56

ほんとうに好きなことに全力投球するだけ	草間 國子	57
すべての出会いは運命の出会い	村山 琮明	58
やりたいことに出合うタイミングは人それぞれ。あらゆる可能性にチャレンジしてみて	戸塚ゆ加里	59
自立し、スマートに生きよう！！	福田 恵子	60
迷ったら面白そうな方へ進んでみよう	中島 理恵	61
一度やってみるのもありじゃない？	芝野 ゆう	62
夢の新薬のシーズを求めて	古川めぐみ	63
枠にとらわれずに、何でも挑戦しよう！！	藤井 江美	64
考える力と行動力	皆川貴美乃	65
夢を語り、夢を叶える人であれ！	大越絵実加	66
10年目の1年生	伊東 育己	67
しなやかに生きる	小林 弘子	68
負けず嫌いが勝利を生む	太田 有紀	69
「あこがれ」を大切に	石毛久美子	70
いつの間にか「この仕事をして良かった！」へと変化	亀井美和子	71
“Beyond Bias and Barriers”、さあ、新しい一歩を踏み出そう！	大坪 久子	72

好奇心に導かれて	佐藤 恵	73
ベストをつくす！	伊藤 智加	74
口腔予防で健康増進を目指す	三枝 遼子	75
大事なのは「何ができないか」ではなく、「何ができるか」	佐藤 紀子	76
自分が信念をもってできることを見つけましょう！	阿部 仁子	77
まずは目の前にことに全力を尽くして下さい	岡田 明子	78
今できることを100%の力で何事も一生懸命に取り組む	田邊奈津子	79
やりたいことはあきらめずに	三澤麻衣子	80

経済力・気力・サバイバル	閑田 朋子	81
好奇心をもって	古野 和美	83
そのときにできる選択、できる努力を	黒川亜友美	84
自分らしさを大切に	小澤恵理子	85
好きこそ物の上手なれ、夢の実現に向けて	瀧 尚子	86
自分の気持ちに素直に	安原 徳子	87
志あれば未来は輝く	大崎 愛弓	88
何事にも全力で！そしてすべてのことに感謝！	生田 直子	89

好きなことのためなら頑張れるかな？	吉垣 純子	90
思いを表現すると現実化する	落合 智子	91
寄り道しながら自然に、そしてやってみなはれ	田中 陽子	92
「どんな人間になりたいか」からはじめよう	末光 妙子	93
自分の選択に潔く向き合うために。	久山 佳代	94
社会の中で果たす役割について考える	浜野亜紀子	96

大学教員

好きならば、必ずやっていけると信じて下さい

平田(河野)典子 (日本大学理工学部数学科 教授)

仕事の内容とやりがい

科学の基礎を成す「数学」を学ぶ面白さは、奥深いものです。数学の問題が解けたときの喜びは、小学生でも充分味わえる知的なサプライズであり、人類に与えられた高度な楽しみでしょう。ゆっくり考えること、真理を重んじるひとには、うってつけの分野です。

私自身はディオファントス問題という整数論の分野を専門しております。渾身の力を込めて証明ができたときの喜びは、それまでの人生における喜びをゼンブ合わせた量を遥かに越える程の狂喜です。あれこれと仲間や学生と議論するのも楽しいものです。女性で本質的な進歩を与えた数学者は日本にも世界にも大勢います。

進路決定のきっかけ

思い起こせば高校のときに、井口正枝先生と言う素晴らしい女性の数学の先生がおられたことがきっかけであったと思われます。厳しくて怖い先生でしたが、数学の証明に関する厳密さ、学問に対する姿勢が実にすがすがしかった。また「暮らしの手帖」と言う雑誌の愛読者でしたが、そこに時々女性科学者の記事があり、科学方面に対する憧れが育まれました。子どもの頃は本ばかり読んでいたり、ピアノを弾いたりしており、文系科目も理系科目も好きでしたが、やはり数学に特にこだわりをもっており、大学では自然に数学科を選びました。

仕事と家庭／生活のバランス

数学の研究は基本的に自宅で行い、学校では校務・教育をおこなっています。卒研生・大学院生からポスドクまで全員を一人で面倒見ますので、「研究室」と言っても構成員は私だけで、実験系の研究室とはだいぶ様子が違います。人材育成はもともと好きでいつでも全力投球です。自分の持つ時間から校務や教育および家庭に関わる時間を引き算した残りを研究にあてます。それらが少なくて困ることもありますが、ポジティブ思考で解決策を講じるようにしております。子育ては一杯楽しみました。家庭を持つことで失われた勉強時間もありますが、自分も家庭を支えにしているので、実際にはマイナスではなく、トータルすると大きなプラスになっているように感じます。

進路選択に対してのメッセージ

数学を学んだ学生が卒業して就く職業は「学校の先生」のイメージが強いかもしれません。数学の研究者の大部分が教員であることは事実ですが、現在は数学を道具としたIT技術や暗号の研究がごく普通に企業で行われていたり、ビッグデータや画像処理の解析が数学の研究そのものであったりするので、実は数学を勉強した後の就職口はあらゆるところにあるのです。金融ファイナンスも数学の応用です。数学は努力を裏切ることの少ない学問で、体力もいらず、また場所もあり選ばず、図書以外は大きな装置等も要らない場合が多いので、女性に向いているかもしれません。好きならば必ずやっていけると信じて、粘り強く勉強すれば、きっといつか実を結びます。

◆プロフィール

中学高等学校教員を数年つとめた後→ パリ第6大学大学院理学研究科博士課程数学専攻→ 奈良女子大学理学部数学科助手→ 東京工業大学理学部数学科教員→ 日本大学理工学部教員（現職）



大学教員

いつもいろいろな可能性があります

藤井紫麻見（日本大学理工学部物理学科 教授）

仕事の内容とやりがい

学部学生の頃は主に太陽や恒星を扱っていましたが、ちょうど卒業時に明るい超新星が出現し、新しい観測データが次々と出てくる大変面白い状況で、大学院では超新星の研究を始めました。超新星内部のX線・ガンマ線輸送のシミュレーションの論文で学位を取得し、その後は他の天体でもX線・ガンマ線のシミュレーションなどをしています。現在は物理学科の教員として物理の基礎や宇宙物理学の授業を行い、4年生の卒業研究や大学院生の修士論文などで天文学の指導をしています。

進路決定のきっかけ

中高の頃から漠然と理系に進みたいと思っていました。地方在住だったので、ロールモデルとしては医師などしかありませんでしたが、どちらかというと生物より地学の方が好みかな、と思っていました。大学に進学していろいろな進路を知り、当初は工学など実学的な分野を考えていました。大学での勉強を進めていくうちに、理学部天文学科へ進学し、その後も進路を迷いながら大学院へ進学して学位を取り、幸運にも職に恵まれて現在に至ります。

仕事と家庭／生活のバランス

任期制研究員の頃は産休や育児など考えられなかったのですが、現在の職場で任期のない職について2年目に第1子を出産しました。勤務時間も短くなり、突然の欠席も多々あり、周囲の方々にとても迷惑をかけましたが、学科の皆さん方が仕事を代わってくださるなど、ずっと支えていただき、感謝しかありません。

進路選択に対してのメッセージ

社会に貢献できる、自分も楽しめる仕事を見つけてください。多少遠回りはあっても、だんだん自分が行くべき場所に近づいていくのだという気がします。悩んでずっと立ち止まるより少しずつでも前進していきたいですが、もちろんいつも情報収集したりよく考えたりすることが大切です。

◆プロフィール

長野県立飯田高校→東京大学理科I類→同理学部天文学科→同大学院理学系研究科天文学専攻→学位取得→日本学術振興会特別研究員(PD)→理化学研究所基礎科学特別研究員→日本大学理工学部物理学科専任講師〈第1子・第2子出産〉→同助教授→同教授(現職)



大学教員

「好き」を仕事として続けるために

押田(川田)佳子（日本大学理工学部まちづくり工学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

私は観光まちづくりやランドスケープという農学と工学の境界領域を専門分野としています。この分野では、身の周りの環境全てが研究対象となる可能性を秘めており、例えば、身近にある公園や緑地をデザインする、観光地を盛り上げるための仕掛けづくりをする、などが挙げられます。研究テーマ故に、様々なまちに赴くことも多く、常に刺激を受け続けられることも魅力といえるでしょう。今後も地域の魅力を体験・体感できる魅力あるまちづくりに携わっていきたいと思います。

進路決定のきっかけ

私が研究に興味を持ったきっかけは、学部1年生の時に野外実習のTAをしていた女性の先輩との出会いでした。修士課程1年生だった先輩は、実習を通じて植物の野外調査にのめりこむようになった私に「興味があるのなら、修士論文の調査を手伝ってみないか」と声をかけてくれたのです。その頃は外で植物に触れ、種名を覚えるのが楽しいだけだったので、先輩が生き生きと研究をする姿から理想の女性像を見出し、今に至りました。

仕事と家庭／生活のバランス

同業者の夫と結婚してから、暫くはお互い研究：8、家庭：2の割合で生活を続けていましたが、2014年に妊娠、翌2015年に長男を出産したことで生活は一変しました。育児休暇が明けてから現在まで長男を保育園に通わせていますが、病気やケガでの連絡も多く、家庭の比重を高くせざるを得なくなっています。現在は夫や義理の母と3人で子育てしている状況ですが、子供は日々成長するので、可愛い今の時期を目いっぱい堪能しながら生活のバランスを取っていきたいと思っています。

進路選択に対してのメッセージ

私もかつては女性がキャリアを重ねる上で、結婚や妊娠・出産が足かせになると考えた時期がありました。実際に「仕事」と「家庭」の両立という壁にぶつかった時、「好きなこと」を仕事にしたからこそ、今踏ん張れています。もし、「女性だから」という理由でやりたいことを諦めようとしているのであれば、そこで踏みとどまってください。好きであればこそ、どんな状況に置かれても続けることができますし、続けたことで自分に自信をもつことができます！

◆プロフィール

大阪府立大学大学院博士後期課程修了（博士（農学）を取得）→兵庫県立丹波の森協会研究員＜結婚＞→日本大学理工学研究所研究員（東京学芸大学環境教育実践センター研究員、信州大学農学部非常勤講師、等を兼務）→日本大学理工学部社会交通工学科・まちづくり工学科助教（博士（工学）を取得）→現職



大学教員

あきらめずに仕事を続けよう

澤邊知子（日本大学理工学部応用情報工学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

就職してからは、今は4K映像と言われる超高精細画像システムの研究を行っていました。当時はハイビジョンが注目されていて、それ以上の解像度をも持つ画像は実用化からは遠いと思われていましたが、そのおかげで、じっくり研究ができ、のんびりした性格の私には合っていたと思います。超高精細画像は専門家が使う医療、美術の分野への適用から始まり、今では家庭にも4Kテレビやカメラも普及し始めました。一つの技術の始まりから普及まで関わったことが、幸運でもあり、仕事の楽しさもありました。

進路決定のきっかけ

高校生の頃、技術を持って何かを開発するのは面白そう、化学より物理が得意、という理由で電気系の学科に進みました。入学当初は、半導体関連の研究室を希望しようと考えていましたが、講義や実験等で信号処理や通信に興味を持ち、その関連の研究室に所属し通信関連の企業に就職しました。当時は、進路先の分野について調べたと思っていましたが、振り返ってみると、よくわからず、直観で選択したと思います。就職してからも、新たに知ることが多く、新鮮で楽しめたと思います。

仕事と家庭／生活のバランス

仕事と家庭のバランスについて、考えたことがありません。常に、目の前にあることを解決していくことに追われていました。家族の病気など予想していない事態が生じれば、仕事にかけられる時間が少なくなるのは仕方がないことです。しかし、仕事をあきらめなければ、道が開けることが多いです。そして、人によって仕事と家庭のバランスの良い状態は違います。仕事に多くの時間をかけている人を見て焦ることもあると思いますが、自分は自分だと自信を持って欲しいと思います。

進路選択に対してのメッセージ

高校や大学時代に、本当に自分がやりたいこと、自分に合ったことがわからない人も多いと思います。面白そだから、条件が良かつたからという理由で、専門や職場を決める人もいるでしょう。途中で思っていたことと違う、自分とは合わないのではないかと悩むこともあると思いますが、最低3年間は、選んだ道を続けてみるべきだと思います。続けることでわかるものが多くあります。また、なんなく直観で選んだ道は自分に合っていることが多いと私は思います。

◆プロフィール

慶應義塾大学理工学部電気工学科→日本電信電話株式会社(以下、NTT)通信網第一研究所→NTT伝送システム研究所→NTT光ネットワークシステム研究所
<結婚、第一子出産>→NTT未来ねっと研究所<第二子出産>→現職



大学教員

千里の道も一歩から！

青柳美輝（日本大学理工学部数学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

人工知能などに応用される学習理論について研究しています。この研究には、学生時代に学んだ多変数関数論、代数幾何の手法が関わっています。今まで得た結果は、長年不明とされていた値で、学習誤差に重要な役割を果たします。機械は与えられたモデルとアルゴリズムに従って学習しますが、その学習方法がどの程度正確かという判定を可能としました。自分の結果が国内外の研究者に好評価され、利用されていることはうれしく、また大學生とともに理論を発展させていくことにやりがいを感じます。

進路決定のきっかけ

ニュートン、エジソン、キューリー夫人のような真理を追求する研究者に小学生の頃から憧っていました。自然や宇宙の真理などの本を読むと面白いな、不思議だなと魅かれしていました。また、子どもの頃から理系分野で働いている大人が身近に多く、女性で子育てをしながらも生きがいのある仕事をしている方多くいました。ですから、高校では迷わず理系を選択しました。私にとって、理系研究者を目指すことはごく自然な選択肢でした。

仕事と家庭／生活のバランス

家庭と仕事の両立はそんなに簡単なことではないと感じます。子供が生まれる前のスピードで研究ができないことは事実だと思います。でも、両立したからこそ、子供の成長を見守る楽しみが私自身の仕事のエネルギーになり、生きがいのある仕事に打ち込んでいます。また、子育ての経験は学生と接する上で、気持ちの理解などに少なからず役立っているように感じます。保育園、主人のサポートに感謝しながら、これからも試行錯誤を続けていきます。

進路選択に対してのメッセージ

好きなことが見つかればとこどん突き詰める時期があるてもいいと思います。将来の布石になります。つまずいたら、ちょっと休んで、客観的に見ることも大事です。いろいろな経験は決して無駄ではありません。自分に深みが出て、良い方向に導いてくれます。とはいっても、私自身の研究人生というのもそれほど平坦ではないし、精神的に苦しくつい時期もあり、今でもがいていますので、皆さんと一緒に、夢をあきらめずに、がんばろうと思います。

◆プロフィール

地元の高校 → 九州大学理工学部数学科 → 同大学大学院数理学研究科数理学専攻博士後期課程修了（理学博士）→ 日本学術振興会特別研究員（広島大学総合科学部数理情報科学コース、ドイツHamburg大学、東京大学大学院数理科学研究科にて従事）<結婚> → 上智大学理工学部数学科助手<第一子出産> → 東京工業大学研究員<第二子出産> → 日本大学理工学部数学科助教→現職



大学教員

急がず「流されてみる」のもありかも。。

小紫誠子（日本大学理工学部数学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

私の専門は、数値シミュレーションによって流体現象の解析を行うことです。これまで翼や円柱などの物体周りの流れから、火災旋風などの自然現象まで、数値シミュレーションでいろいろな“流れ”を見てきました。現在は水深2000メートルもの海底から噴出する熱水の流れの計算に取り組んでおり、日々、未知の深海の流れにわくわくしています。流体というのは何やらつかみどころが無いようですが秩序が保たれていて、コンピュータで再現されるその美しい流れに日々魅了されて止みません。

進路決定のきっかけ

大学4年生になった頃、折しも就職氷河期真只中で、あと2年という猶予期間を求めて、卒業研究の内容も決まらぬままに大学院への進学を決めました。なんともいい加減ですけれど、新しい自分を発見できるのではないかとのんびりやっておりましたら、卒業研究で流体の数値シミュレーションのおもしろさと流体現象の美しさの虜になり、恩師に勧められるままに大学院博士前期課程、そのまま博士後期課程に進学するという顛末になりました。

仕事と家庭／生活のバランス

若い頃は、がむしゃらに流体計算をしていましたが、現在は、学生の研究の面倒や大学の授業などの仕事もあり、一つの事に集中することもままならないですが、全てがアイデアの宝庫です。また凝り性で家事にも熱中していますが、そのような生活や同業の夫からの刺激もあって、忙しいですが創造的な日々を送ることができて幸せだなと感じます。夫の勤務地が離れており別々の暮らしであるためいろいろな制約もありますが、互いの仕事への理解はとても重要と感じます。

進路選択に対してのメッセージ

人との出会いや環境に恵まれたことがとても幸運でしたが、私自身はまさに流体の如く、逆らうことなく流れに任せて現在に至っているように思います。でも、この「流れ」は、周囲に流されることではなく、「自分に心地よい流れ」です。これから進路を決めなければならない若い方の中には、「やりたいこと」がよく分からない、という方もいらっしゃると思います。そんなときは、急いで決めないで、ゆっくりいろんな可能性を探ってみてください。きっと「心地よい流れ」に出会えると思います。

◆プロフィール

小さい頃から理屈っぽく、ロボットのおもちゃでミサイルを飛ばして遊ぶような子供でした。よって高校までに完璧に理系しか選択肢は無くなり、ついにここ（現職）まできました。大学から大学院へと進み、幸運にも日本大学理工学部数学科助手の職を得て、学位取得（博士（理学））のち、現在同学科准教授です。いまでも飛行機に乗ると主翼のところの空気の流れとかフラップの動きが面白くてずっと見ています。



大学教員

「なんとなく」から楽しいことを見つけよう

永田知子（日本大学理工学部電子工学科 助教）

仕事の内容とやりがい

大学院卒業後、すぐに本学で助手として着任し、3年後の今年度から助教になり授業を受け持つようになりました。研究内容は、電子状態を設計・実現し革新的な機能材料を創造することです。研究室では20人の学生達と研究生活を送っています。学生達とは、研究や勉強と一緒にに行うのはもちろん、頻繁に懇親会を設けて楽しく生活しています。また大学での研究と教育に携わる傍ら、地域の子供たちに科学の面白さを伝えるイベントも運営しています。忙しくも充実した日々を送っています。

進路決定のきっかけ

高校の物理の先生に憧れ地元の岡山大学理学部物理学科に入学しました。大学院博士前期過程1年のとき大阪の企業の内定を受けましたが、2年生になった頃、当時の研究室に所属していた先生と四六時中実験・議論をしていく中で研究の面白さに目覚め、後期過程への進学を決めました。さらに、後期過程在学中に留学や海外での学会発表・共同研究を通して、世界を股に掛けて研究する楽しさを知り、アカデミックに進むことを決めました。

仕事と家庭／生活のバランス

平日は仕事メインですが、帰宅後は趣味で集めたおしゃれなグラスでお酒を楽しんでいます。休日は家事を片付けていろいろな趣味に没頭しています。今のマイブームはインテリアで、ピンと来る家具やインテリア、アート作品に出会うまでじっくりお店をまわっています。これだ！と思うものに出会えたときは少々高くても購入します。普段仕事をがんばっているからこれが買えるんだと思うと忙しい平日もやる気が出ます。また、月に1回程度は遠方に住む友人とお泊り会を楽しんでいます。

進路選択に対してのメッセージ

好きなことが決まっている人は、それに向けて一生懸命やってください。好きなことが見つからない人は、学校の科目で好きな科目から選んでも良いと思います。「なんとなく好きかも」で選んだ道でも、「一生懸命やれば必ず面白さ・楽しさ・充実感が得られます。」「一生懸命やれば」というのは、いつもアンテナを張って、出会う人・物・現象をよく観察し、常に自分で考え、自分なりの答えを出しながら取り組む」ということです。楽しいことにたくさん出会えると良いですね！

◆プロフィール

岡山大学理学部物理学科 → 博士前期過程修了 → 博士後期過程修了(博士(理学)) <フランス留学> → 日本大学理工学部電子工学科助手 → 現職



大学教員

色んな環境がある中で自分はどうありたいか

加藤千晶（日本大学理工学部建築学科 助手）

仕事の内容とやりがい

博士後期課程を中退して研究助手になりました。普段は大学の業務の合間にゼミ生の指導や研究をしています。私の専門は日本建築史です。工学だけでなく芸術や歴史についての知識や感覚も必要な、理系と文系の垣根を超えた分野といえます。設計者が自らの設計を語ることができる現代建築と違って、古建築はそこに込められたデザインの意味を自分で読み解かねばなりません。その好奇心から、古建築の解析を通じた古建築の空間やデザインの読解を、大学生の頃から現在までずっと続けています。

進路決定のきっかけ

昔から古い建物が好きで、大学に入る前は漠然と、古建築の修復に携わる建設会社で働きたいと思い、修復現場に出入りしていました。高校生のときにカンボジアに行ったことがきっかけで、アンコール・ワットの修復に建築史・建築論研究室（現在所属している研究室）が携わっているのを知り、理工学部に入りました。大学で勉強するうちに、私の先生が行っている古建築の解析に興味が湧くようになりました。定説とは違う自分なりの発見があるのが楽しく、気付けば研究を続けています。

仕事と家庭／生活のバランス

独身で自分の家庭を持っていないこともあります。建築の分野に携わっていると仕事とプライベートの区別があまりありません。普段は終電まで大学にいることが多いですが、自分のコンディションによっては家で仕事をする場合もあります。建築を見に出かけるときが一番楽しく、気晴らしになっています。生来内向的な気質を持つためか、時間ができた時にたまに一人になって、頭に溜め込んだ情報や思考を整理（本や音楽などを伴うこともある）する時間を大切にしています。

進路選択に対してのメッセージ

身の回りを取り巻く環境は、地域や分野、組織などによって様々ですし、時代により変化します。選択を迫られている時も選択した後も、自分はどうありたいかという問題は絶えず付き纏います。皆さんの参考になるかはわかりませんが、自分が何を経験し何を思ったか、何が好きで嫌だと感じるか、何が得意で不得意か、漠然したことに対し理由を常に考え続けることっています。優劣のどちらも併せ持つ自分とどう付き合うか、また他人と別視点で物事を捉え活かすことに繋げるかが大切になる気がします。

◆プロフィール

日本大学理工学部建築学科 → 日本大学大学院理工学研究科博士前期課程→ 日本大学理工学部博士後期課程（中退）→ 現職



大学教員

楽しむためにじっくり悩んでほしいです

堀切梨奈子（日本大学理工学部建築学科 助手）

仕事の内容とやりがい

芸術活動が行なわれる場、特に、劇場や美術館などの専門施設以外で展開される芸術活動についての研究を行なっています。また、大学の授業補佐や、研究室の学生の論文指導なども私の仕事です。私自身、学生時代の研究を通して、感覚でしか捉えられなかつた面白いと思うものを論文としてまとめてることで、他者と共有できる楽しさを知りました。その経験は、どんな仕事についても役立つものだと思いますし、多くの学生にも味わってもらいたいと思いながら、日々仕事をしています。

進路決定のきっかけ

大学3年の時に訪れたベルサイユ宮殿で偶然行なわれていた村上隆の個展で、想定外の場所の使われ方と作品の力強さに感銘を受け、芸術作品がインストールされる場を研究したいと建築計画を専門としました。修士課程修了後は、多くの建物の使われ方に触れるため建物管理会社に就職。仕事の傍ら休日や終業後にアートプロジェクトのメンバーとして活動をしていました。そんな生活をしているうち、芸術活動の場についてさらに深く考えたいと研究者を志しました。

仕事と家庭／生活のバランス

現職について半年ほど経ったころ、実家から都内へ引っ越しました。新居は、大学時代の先輩と、友人づてに紹介してもらった人とのシェアハウスです。3人とも全く異なる仕事と生活リズムですが、顔を合わせた時には仕事、人生、趣味、家族など様々な話をし、発見と刺激の多い毎日です。実家にも月1回程度帰っています。まだまだ研究者として駆け出しで、ワークとライフの区別もつきづらい毎日ですが、色んな帰る場所があり、必要な時に息抜きできることでバランスがとれているかなと思います。

進路選択に対してのメッセージ

どんな進路を選択するかより、選んだ先の道でどのくらい楽しめるかが大切だと思っています。私自身の進路選択を思い返すと迷ってばかりいましたが、大切にしてきたもの、考えていきたいこと、それを仕事としたいのか、視野を広げるために違う世界にいてみるのか…などを沢山の人に相談しながら考えていました。そんなプロセスを経て選んだ道はどれも、大変なことがあっても楽しい日々です。進路選択はその分岐点を通して生き方を考える良い機会だと思うので、じっくり悩んでほしいと思います。

◆プロフィール

神奈川県生まれ。私立玉川学園高等部卒業。2012年、日本大学理工学部建築学科卒業。2014年、日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程（佐藤慎也研究室）修了。2014～16年、日本管財株式会社。2016年～現職。



大学教員

自分自身のために自由な選択を

金子(高藤)美泉 (日本大学理工学部精密機械工学科 助手)

仕事の内容とやりがい

教職員として大学に就職して3年が経ちました。基本的な毎日の仕事としては、授業のお手伝いとマイクロ機能デバイス研究センターでの研究活動です。学生時代から継続している研究活動を、歳も（そこまで）変わらない大学院生とあれこれと検討しながら楽しくやっています。教員になってからは、これまでの自分がしてもらったように、研究室や学科の学生が自由に活動できるように心がけて働いています。

進路決定のきっかけ

私自身は大学に入るまで学部で卒業して就職する気でいました。しかし、研究室に配属されて自身の研究テーマが面白くなってしまいついつい博士課程まで進みました。博士課程に進むときには少し悩みましたが、研究室に在籍していた助手の先生の存在が博士というものに現実的なイメージをくれました。ただ、いまだに自身の仕事に対しては学者というよりは「好きなことをする仕事」だと思っています。そのため、研究自体が息抜きになることがあります。

仕事と家庭／生活のバランス

2017年の4月に結婚をして、現在埼玉から千葉の大学に通っています。夫も私も学生時代は同じ環境でしたので、お互いの仕事（特に私の仕事環境）に対しては寛容なのではと思います。できるだけ仕事は家に持ち帰りたくないと思っていますので、帰るのが遅くなったとしても、家では自分の生活を大事にしています。最近は家電の進歩が素晴らしいのでその点は助かっています。休日はできるだけ家のことをやったり、遊んだりとリフレッシュを試みます。

進路選択に対してのメッセージ

自分が好きなことを第一に考えて、自由に選択してほしいと考えています。女性が仕事をすることに対して制限が多いと考える人がいるかと思いますが、世間的な制限や習慣は結局自分ではない誰かが言っていることです。自分がやりたいことを選択するときに制限や後悔は少ないかと思います。前例をつくるぐらいの気持ちで選択肢を増やしてください。

**◆プロフィール**

県立高校卒業→日本大学理工学部精密機械工学科→日本大学大学院精密機械工学専攻前期課程→日本大学大学院精密機械工学専攻後期課程→現職

大学教員

夢や目標を持つきっかけとは

早川麻美子（日本大学理工学部物質応用化学科 助手）

仕事の内容とやりがい

学部卒業後は千葉県の私立中高一貫校に理科・化学の講師として勤務しました。教員・社会人1年目として毎日バタバタした生活を送る中、B4時の研究を論文に投稿するというチャンスをいただきました。英語が苦手な私にとって、限られた時間の中での論文執筆はなおさらには苦しいものでした。しかし、この経験で研究を続けたいという気持ちが増し、研究・大学教育に興味を持ちました。こうして今は大学教員として「学生実験」や「卒業研究」を通して研究と教育に携わり、充実した日々を送っています。

進路決定のきっかけ

中学で出会った修造さんのような熱い社会の先生が私にとって衝撃的で、「教員」という職業に興味を持つきっかけとなりました。高校進学後に文系理系選択では迷わず好きだった理数系の道に進みました。好きだが決して得意ではなかったため、うまくいかないことも多く、一浪の末に本学科に進学しました。有機合成化学研究室での研究の日々はとても楽しく化学を更に好きになりました。卒業後、目指していた中高教員になるも、やっぱり研究もしたいという欲張り精神から今の道に進みました。

仕事と家庭／生活のバランス

家庭については未来予想図を語ることになってしまうので、今回は仕事とプライベートについて書かせていただきます。『休日の過ごし方』食べることが好きなので雑誌やネットで気になった食べ物を食べに行ったり、時にはボルダリングなど運動をしたりしています。学生時代に比べ運動することが減り、年々体力の衰えを感じています。健康のためにも、パワフルに働くためにも食べてばかりではなく、もっと運動を取り入れていかなくてはいけないとバランスの見直しを計画中です。

進路選択に対してのメッセージ

「夢や目標を持ちなさい」と言われ、探しても見つからないと焦り悩んでいる人が多いと思います。もちろん夢や目標があることは素晴らしいことですが、ないことがダメなことだとは思いません。目の前のことをコツコツと一生懸命に取り組みながら、なんとなく流されてみるのもいいと思います。色々な人と出会い、様々な経験をしていくうちに自分の中にいる「好きなこと」「誰にも負けたくないもの」「誰かの役に立ちたい気持ち」など気づき、自然とやるべきことが見えてくる気がします。

◆プロフィール

都立小石川高校 → 日本大学理工学部物質応用化学科 → 私立秀明八千代中学
高等学校
非常勤講師→現職



大学教員

楽しさを言葉に

小池美弥（日本大学理工学部物質応用化学科 助手）

仕事の内容とやりがい

私は今年助手に任命されました。大学の先生というと、教授・准教授・助教授が一般的に知られていると思いますが、その下に助手がいます。私は主に学生実験に関する仕事と研究室の研究等に関わっている新米です。学生時代、後輩に指導するときに思ったのが、どうすれば研究へのめり込んでもらえるかで、それは今も大きな課題として考えています。人が面白いと感じる研究を考えると、それをうまく言葉で伝えるのが今後の目標です。

仕事と家庭／生活のバランス

今年社会人一年目なので、バランス等はまだ手探りです。基本的には生活のほとんどが研究室ですが、学生時代と同じ研究室に所属しているので、運動に飲み会にメリハリのある研究室で楽しくやっています。また研究室だけで物事が完結しないよう、休みの日には友達と会ったり昔住んでいた学生寮に遊びに行ったりして、研究室の外の人とも関わるよう意識をしています。人に何かを伝えるには自分もたくさん経験したほうがいいと思うので、たくさんの人と話したいです。趣味探し中。

進路決定のきっかけ

小さい頃から科学館巡りが好きな子供でした。高校では自然と理系を選択し、興味を絞りきれなかった大学は有機・無機・物理・生命、幅広い化学を学べる現学科に入学しました。どの分野も楽しそうでしたが、後の大学講義や科学館のディスカバリートークやテレビ等で微生物の可能性に興味を持ったので、微生物関係の研究室に入り現在に至ります。小さい頃の将来の夢は科学館で説明してくれるお姉さんでした。研究と教育どちらにもかかわる現職は、その夢に近いのかなと思う時があります。

進路選択に対してのメッセージ

人生には流れがあると思います。流れに乗るか、自分で流れを作るか、はたまた流れに逆らってみるか。抽象的なことを言いましたが、どれを選んでも経験になるし、進路選択に絶対はない、私はそう考えています。私の母は最初銀行員でしたが、30歳を過ぎてから新たにフィットネスインストラクターの職に就きました。人生どこで転機が訪れるかわかりませんし、誰に何に影響されるかもわかりません。いろいろアンテナを張り、慎重さとともに時に飛び込んでみる勇気を持つのも面白いと思います。

◆プロフィール

日本大学山形高等学校 → 日本大学理工学部（物質応用化学科）→ 日本大学大学院理工学研究科 博士前期課程（物質応用化学専攻）→ 日本大学理工学部 助手（現職）



大学教員

Where there's a will, there's a way (意志あるところに道は通じる)

吉野泰子（日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科 教授）

仕事の内容とやりがい

日大理工学部海外学術交流提携校である西安建築科技大学と1996年以来23年間、日中共同研究を推進しています。科研費や理工学部プロジェクト研究費等の助成により「中国西部地域における気候変動と健方に配慮した新型省エネルギー住宅構想」を展開するなど、異分野の研究者との共同研究が次なるステップへと繋がり、学部生や院生諸氏を伴い後進を育成しながら教育・研究の醍醐味を味わえることが仕事のやりがいに通じています。

仕事と家庭／生活のバランス

壺井 栄著「二十四の瞳」に憧れ、何よりも教職が好きな私は、大学院在籍時に高校1級免許を取得し、純朴な子供達に囲まれた映画のワンシーンを夢見ていたことから、結婚、出産、男女別姓問題、育児退職など様々なライフステージにおいて自ら考え選択するしかありませんでした。M字カーブの谷間をくぐり抜けることができたのは、私自身の強い意思と夫の協力、学童保育後サポートしてくれた両親なくしては語られません。息子に持たせた5色、10品目のお弁当は私の罪ほろぼしでもあります。

進路決定のきっかけ

理工学部名誉教授で恩師の木村 翔先生の教育・研究にかける熱い思いにふれました。博士課程への進学を考え始めた私への不安を隠せない両親に対し、先生が現場測定の帰路、自宅を訪ねて下さり、丁寧にご説明頂いたことで、両親共々何ら迷うことなく、マスターからドクターコースへと進学しました。学部卒5年後には建築学専攻の課程博士第1号となり、様々なライフステージを経験した29年後には、建築系初の女性教授、卒後37年には日本建築学会理事を拝命し、いつのまにかバイオニアとなっていました。

進路選択に対してのメッセージ

前例がないからあきらめるのではなく、しっかりと自分自身の頭で考え、自分で信じた道を真摯な気持ちで歩んでいくうちに、道はできるものだということを自らの経験が実証してくれました。ワークライフバランスが説かれ、ロールモデル集が出版されるなど強力なサポート体制が敷かれた今、しなやかに自分らしいライフステージをデザインして下さい。

Where there's a will, there's a way. これが私の信じる道です。

◆プロフィール

日大理工学部建築学科卒→同大学院理工学研究科博士前・後期課程修了（工学博士）→日大工学部建築学科助手・専任講師<結婚・第一子出産>→日大生産工非常勤講師→現職



大学教員

自分で選んだ道を責任もって進みましょう！

高田昌子（日本大学短期大学部生命・物質化学科 教授）

仕事の内容とやりがい

大学卒業後、食物学科で基礎の化学教育と食品学関連の研究に携わり、大学院修了後は非常勤講師として教育中心の生活を送りました。現在は短期大学で教育と研究ができる環境にいます。理工学部の分析機器を共同利用できる恵まれた環境で、食品成分の物性に関するテーマで実験を進めています。また、実験経験が少ない学生に実験の面白さと楽しさを伝え、実験から新たな発見があることを伝えていきたいと考えています。学生の成長を実感しながら、充実した日々を送っています。

進路決定のきっかけ

数学の教員になりたいと考えていましたが、食物学科に進学しました。食品に関する実験に興味を持ったことと、素敵な先生との出会いが研究の道に進むきっかけとなりました。先生は研究・教育と子育てなどの家事を両立されている女性で、研究だけでなく女性の生き方について多くのことを学びました。助手をしながら数学を学ぶ夢を実現させるため二部数学科で学び、さらに高分子物性の研究に取り組みたいと考え理工学研究科博士課程に進学しました。学位を取得したことが現職に繋がっています。

仕事と家庭／生活のバランス

新しい家庭を持つときには仕事を続けることに理解がある相手を選ぼうと考えました。実際に理解してくれたのかは疑問ですが…。子育ては家族の協力と保育園・学童保育などの制度を利用し乗り切りました。仕事の忙しさは立場などで大きく変化しますし、家庭でどの程度家事に時間がかかるかに関しても子どもの年齢、親の健康状態などで変化します。周囲の協力が得られたことで、何とか仕事と家庭のバランスをとってきたように感じています。

進路選択に対してのメッセージ

自分が何をやりたいのかをしっかりと考え、自分の気持ちに正直に進路を選択することが後悔しない秘訣です。女性であることをあまり意識する必要はないのではないでしょうか。進路選択に迷ったら、周囲に相談することも良いのですが、決定するのは自分で、自分の選んだ道を自分で責任を持って進んで欲しいです。平坦な道だけではないので諦めたくなるときがあると思いますが、忍耐が必要で、途中で諦めないことが大切です。夢に向かって前進しましょう。

◆プロフィール

県立高校 → 共立女子大学家政学部食物学科卒 → 共立女子大学家政学部助手(東京理科大学理学部二部数学科卒) <結婚・第一子出産・第二子出産> → 日本大学大学院理工学研究科博士課程工業化学専攻修了(博士(工学)) → 大学非常勤講師 → 日本大学短期大学部助教 → 現職



大学教員

理系って思うほど難しくも大変でもない！

山崎誠子（日本大学短期大学部 准教授）

仕事の内容とやりがい

ランドスケープデザインは、古くは造園、作庭、いまは環境、景観範囲まで含むデザイン分野です。屋外空間すべてをデザインするといって良いでしょう。なので、知識としては、建築、土木、都市計画以外に、自然環境範囲の生物、気象、地理、地質まで必要とされます。大学生活の4年だけではそのような知識をすべて得ることはできません。社会に出て30年以上になりますが、いまだに勉強することばかりです。しかし、知識が増える喜びがあります。特に私の研究テーマが、植物からの計画なので、植物の奥深さを知れば知るほど、新しい利用の可能性を感じることができます。

進路決定のきっかけ

もともと父が建築設計事務所を自営していたため、建築設計は身近で、かつ、答えがはっきりできる数学系が好きだったこともあり、なんのためらいもなく、建築学科を選びました。大学4年の時に就職等の進路を決定するときに、父の事務所を将来手伝うことも視野にいれて、住宅系や都市計画系の会社に就職することも考えたのですが、少し違った視点で勉強したいなと思い、幼いころから興味をもっていた植物の方で建築と関係することを勉強したいと研究室の先生に相談したところ、造園、ランドスケープ分野に進んではどうかと紹介されたのがきっかけです。

仕事と家庭／生活のバランス

やりたいこと、やらなければいけないことが沢山できました。また、年齢を重ねるに従い、いろいろな役員、委員を任されることが多くなったため、休養する時間が少なくなっています。自宅には母と愛犬だけしかいませんので、すっかり家庭生活は母まかせで、平日、休日問わず仕事と研究に費やされています。ただ、母も高齢になつたため、時間を作つて食事や洗濯等は手を出すようになってきました。母が今以上に不自由になつてきたら、また違う形で仕事や研究をセーブしないといけないと思っています。

進路選択に対してのメッセージ

少し無理があるぐらいの方を選ぶほうが、のちのち結果がよくなるような気がします。しかし自分が興味のあること、面白いと思うことでなければ続けられないものです。そこが大事です。また、自分では無理かな、女子がやるには大変かなと思っているとしたら心配しなくて大丈夫です。私の人生経験から、実は女子のほうが体力と開き直りがある！なんとかする力は女子のほうが強いです。理系、文系に性差はないですよ。興味と好奇心が湧いたらぜひ理系を選んでください。

◆プロフィール

武藏工業大学（現：東京都市大学）工学部建築学科卒業→東京農業大学農学部聽講生→ランドスケープ設計事務所勤務→東京デザイナー学院非常勤講師→ランドスケープ設計事務所設立→武藏工業大学工学部建築学科非常勤講師→日本大学理工学部建築学科助教→日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科准教授

